

## 《 令和5年度カリキュラム・マネジメント評価表 》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
28	県立海洋高等学校	全日制	

重点度	項目	現状分析と課題[R5]	目標【GOAL】	取組【PLAN】⇒実施状況【DO】	検証【CHECK】 成果	対応【ACTION】 次年度[R6]への課題と取組の方向性
1	学習指導 (教育課程)	【現状】 ・基礎学力が定着していない生徒が多く、自ら考えたり調べたりすることが苦手である。 ・基本的に学習意欲が低く、水産海洋関連の目的意識も低い生徒が多い。 【課題】 ・多様な生徒が入学しているため、一人ひとりのきめ細やかな対応が難しい。 ・基礎学力の定着を図るため、教科横断的な学習を効果的に進める必要がある。	高校生のための学びの基礎診断 ・「数と式の計算」の正答率がC評価以上の生徒の割合 5%増 * ・「論理的文章(評論)」の正答率がE評価の生徒の割合 5%減 * ・教科横断的な学習の取り組みを行う割合 10%増	・基礎学力が低い生徒へきめ細やかな指導を行うため、補講等は班を分けて少人数で対応した。⇒○ ・教科横断的な学習の取り組みとして、海洋食品科と理科での横断的な学習が生徒の自主的な行為により行われた。 ・その他、各教科において横断的な取り組みを実施。⇒○	高校生のための学びの基礎診断 ・「数と式の計算」の正答率がC評価以上の生徒の割合 12%増 ・「論理的文章(評論)」の正答率がE評価の生徒の割合 9%増 ・教科横断的な取り組みが各教科間で広まっている。10%増	【課題】 ・多様な生徒が入学しているため、一人ひとりのきめ細やかな対応が難しい。 【取組の方向性】 ・T.Tの授業を有効に活用して、多くの人の目と手で対応することが必要。 ・教科横断的な取り組み、企業との共同開発、ICTを活用したマサバの養殖事業、学校間の連携などの新しい取り組みに挑戦し、結果を出している生徒がいる。このような取り組みは、今後も積極的に行っていく。
	生徒の授業満足度	【現状】 ・授業への満足度については、概ね満足している様子がうかがえる。 【課題】 ・一斉授業では多様な生徒に対する指導が困難な場合があり、どのレベルに焦点をあてて授業を行うか難しい。「個別最適な学び」に向けた教職員の授業改善の取り組みが必要。	・生徒による授業評価の平均値3.0以上 *	・「わかった」「できた」の体験を授業の中で感じられるよう各教科担当者がそれぞれに工夫した。⇒○	・生徒による授業評価の結果、授業への満足度は平均3.5と高評価を得ることができた。 ・生徒による授業評価の結果、「学びの進め方を工夫している」との評価が平均3.5と高評価を得ることができた。	【課題】 ・一斉授業では多様な生徒に対する指導が困難な場合があり、どのレベルに焦点をあてて授業を行うか難しい。個別最適な学びの構築が必要。 【取組の方向性】 ・ICTをうまく活用し、個々の能力に応じた教材や課題で対応し、誰もが満足できる授業のあり方を研究していく。
2	進路指導 キャリア教育	【現状】 ・支援を必要とする生徒の就労については、学校・生徒・保護者の共通理解のもとハローワークや各自治体等の支援部署との連携を密にしている。教員向けの研修会を4月に実施する予定。 【課題】 ・学んだことを生かせる水産海洋関連企業(水産食品業・増養殖業)の新規開拓。 ・療育手帳所持生徒及びその疑いのある生徒に対する進路対策の充実。	・水産海洋関連企業への就職 60% * ・水産海洋関連学校への進学 50% * ・水産海洋関連企業(水産食品業・増養殖業)の新規開拓 100% ・ハローワークや教育相談等主催の職員研修に参加 100%	・進路行事実施に向けた取組⇒○ ・水産海洋関連企業新規開拓に向けた取組⇒○ ・ハローワークによる特別な支援を要する生徒への職員研修 100%参加	・水産海洋関連企業への就職 41% ・水産海洋関連学校への進学 25% (国立宮崎大学合格1名) ・新規水産海洋関連企業から複数の求人が頂いた。増養殖業 200%増 ・ハローワークによる特別な支援を要する生徒への職員研修 100%参加	【課題】 ・支援を必要とする生徒の就労については、生徒、保護者理解のもとハローワーク、各自治体等の支援部署と密に連携する。また継続的に教員向けの研修会を実施する必要がある。 【取組の方向性】 ・生徒の進路意識を向上させ、進路実現につながる支援を行う。 ・水産海洋関連企業への就職、水産海洋関連学校への進学割合の継続的拡大を図る。
	生徒指導	【現状】 地域に愛される海洋高校生を目標に、身だしなみと挨拶を重点的に指導して一定の成果を上げてきた。人権に配慮し、時代に応じた生徒心得、賞罰規定、交通規定等について、引き続き見直し、改正を行う必要がある。 【課題】 ・各規定について、必要に応じて改正と見直しを行って行く必要がある。 ・地域に愛される海洋高校生を目標に、身だしなみと挨拶の指導を継続する必要がある。	・生徒が自ら身だしなみを意識し、率先して挨拶を行えるようになる。 ・各規程の改正と見直しを行う。 100%	・身だしなみと挨拶について継続的な指導を行う。⇒△ ・各規程についての見直しを検討した。⇒○	・春の交通安全キャンペーン、さわやかマナーアップキャンペーンなどを通じて、身だしなみ、挨拶の指導、生徒による呼びかけを行うことができた。 ・各規程の不備について確認と見直しを継続している。100%	【課題】 ・各規定については、今後もして改正と見直しを行って行く必要がある。 ・地域に愛される海洋高校生を目標に、身だしなみと挨拶の指導を継続する必要がある。 【取組の方向性】 ・各規定の見直しを継続する。また、生徒が主体的に考え、取り組みに参画できるよう検討を重ねていく。 ・全職員による身だしなみと挨拶の指導が行えるよう取り組み方を見直す。
	特別活動 (部活動は含まない)	【現状】 ・コロナ禍も落ち着き、学校行事もコロナ禍前と同水準に戻りつつあり、生徒会の自主的な活動が行われている。 【課題】 ・学校行事がコロナ禍前と同様に行われているが、完全に感染が終息したわけではないので、マスク、手洗いなどを含め、感染対策をどのようにしていくか。	・学校評価の学校行事に関する生徒アンケートで、肯定的意見を70%以上。 ・行事の内容を見直し、計画的に進める。100%	・クラスマッチは悪天候のためできなかったが、その他の野球応援、体育祭、生徒会選挙など、主だった学校行事は開催することができた。⇒○ ・新型コロナウイルス第5類に移行し、感染症対策をし、例年並みに行事を実施できるよう計画をたてた。⇒○	・学校行事についての学校評価アンケート結果は、十分満足であるが30%、満足であるが42%で合わせて72%が肯定的意見であり、70%以上という目標は達成できた。 ・野球応援、体育祭ともに準備に時間がかかった部分はあるが、予定通り実施することができた。100%	【課題】 ・屋外での行事に関しては、天候に左右されるため、全天候型のメニューも検討していく必要がある。行事の精査も必要である。 【取組の方向性】 ・近隣の学校と情報交換を行いつつ、行事の精査を行い、また内容を検討していく。
	組織運営 (働き方改革)	【現状】 ・定時退勤を意識している割合は増えてきているが、結果的に定時退勤できない教職員は多数いる。 【課題】 ・働き方改革についての意識は徐々に高まっているが、改革に対しての感じ方に、職員間で温度差がある。引き続き、働き方改革を推進する必要がある。	・ICTを活用し、業務の負担削減を行う。 10%減 ・働き方の見直しを行い、軽減できることを増やす。10%軽減	・ICTを活用し、業務の負担削減を行う。⇒○ ・働き方の見直しを行い、軽減できることを積極的に行った。⇒○	・職員朝会のGoogleclassroom上で行うことに加え、各種会議資料のペーパーレス化、提出書類のペーパーレス化、Googleフォームの活用により業務の負担軽減ができた。10%減 ・定時退勤日を有効なものにするために、定時退勤日には部活動や課外等は行わず、校務分掌や担任などの業務に専念することができた。定時退勤する職員の割合も増えている。 10%軽減	【課題】 ・働き方改革に対しての感じ方に、職員間で多少温度差がある。 ・業務内容を変えずに負担を軽減するには限界がある。 【取組の方向性】 ・これまでのあたりまえだと思っていた業務を見直し、負担軽減を推進する。 ・満足感を減らすことなく、業務軽減のできる方法を模索する。
3	教育環境 整備	【現状】 ・ICTを活用した授業が増えつつあるが、ICTを使用することが、必ずしも生徒の”より良い学び”のためになっていないこともある。 【課題】 ・多くの場面でICTを活用してきた。ICTを使うことだけでなく、どのように使うことが生徒の深い学びに繋がるのかを考える。「個別最適な学び」に向けた教職員の授業改善の取り組みが必要。	・すべての生徒、教職員がICTを活用した授業が行える。100% ・ICTを活用し、「個別最適な学び」に向け授業改善を行っている教員の数を増やす。10%増*	・校務においてclassroomやスプレッドシート、formsなどを積極的に活用した。⇒○ ・積極的にICTを活用した授業を行った。⇒○	・全ての生徒及び教員がclassroomやスプレッドシート、Formsを活用して校務や授業で活用できるようになった。100% ・教員がICTを有効的に活用した結果、生徒による授業評価では「学びの進め方を工夫している」との評価が平均3.5と高評価を得ることができた。	【課題】 ・ICTを使うことだけでなく、どのように使うことが生徒の深い学びに繋がるのかを考える必要がある。個別最適な学びへの活用。 【取組の方向性】 ・今後も、ICTを有効的に活用しながら、生徒の「主体的・対話的で深い学び」のために何ができるか常に問を持ち授業改善を行っていく。
	地域との 連携 (保護者、地域住民等)	【現状】 ・保護者や地域住民との交流については、感染症対策を配慮しながら予定通り実施できた。 【課題】 ・安全対策に取り組みながら、生徒の教育活動を維持するために、地域との交流や保護者参加の行事や、企業実習を行って行く必要がある。	・地域や企業との連携を進める。5%増 ・保護者の方々に参加していただける学校行事の実施。10%増	地域イベントや企業実習を継続的に行った⇒○ クリーン作戦や体育祭などで保護者の参加を積極的に促した⇒○	・地域イベントは生徒たちの積極的な取り組みによって好評だった。 ・企業実習では参加企業の協力により連携が深められた。5%増 ・多くの保護者の方々に、クリーン作戦や体育祭、研修旅行など、学校行事に参加していただいた。参加延べ人数10%増	【課題】 ・これからの海洋高校の方向性を考えた上で各イベントの参加が必要。 ・生徒の主体性を向上させる必要がある。 【取組の方向性】 ・地域の方々と協力しながら、更に多くのイベントや地域貢献、学校行事等に参加し、地域との連携を図っていく。
	保健管理 安全管理	【現状】 生徒及び職員の健康診断を計画的に実施。 教育的及び職場的な健康・安全を目的とした巡視活動の実施。 【課題】 受診の漏れ者対応、及び結果の活用を呼びかけ。 巡視結果の効果的な活用。	・該当者の法定健康診断を100%実施する。 また、結果を踏まえた効果的な活用ができる状態にする。 ・校内の各場所が、安全及び健康的な活用ができる状態にする。100%	・年間計画の作成及び実施、実施予定の案内、事後結果活用案内 ⇒ ○ ・漏れ者への対応 ⇒ ○ ・健康管理医との校内巡視 ⇒ ○ ・巡視希望箇所の募集及び巡視の実施 ⇒ ○ ・管理職や事務との情報共有 ⇒ ○	・計画的に健康診断を実施できたが、胸部X線など、後日こちらで対応できない項目については長期欠席や部活動の大会などで欠席し、95%になったものもある。健診漏れ者へは通知文にて家庭に連絡することができた。100% ・該当者に事後活用のための通知等をする事が出来た。100% ・計画的に校内の巡視が実施できた。90% ・事務との連携で、校内の改善につながっている。80% ・各日誌や報告書等で情報の共有ができた。100%	【課題】 実習棟教室などの中でも使用頻度の高い教室で、エアコン未設置のため夏季の猛暑で体調不良になる生徒が多い。早急に対策が必要である。 【取組の方向性】 冬の暖房はストーブやファンヒーターで対応できている。冬の暖房まで考えなければ業務用の高価なエアコンは必要ないので、冷房専用と考えて家庭用のエアコンでいいので入れてもらえるように交渉していく。
	研修 (資質向上の取組)	【現状】 ・多様な生徒を指導するにあたって、必要な情報共有ができていない場面がある。 【課題】 ・多様な生徒を指導する上で、情報共有は欠かせない。そのためにも、全生徒の状況や特性を把握できる場を設定するだけでなく、全職員が参加できるように一定の配慮が必要。	・多様な生徒の指導にあたり、情報共有を行う。100% ・職員研修の参加者を増やす。10%増	・年度当初に全職員で全生徒の情報共有を行った。⇒○ ・教職員として必要な研修を適切な時期に適切なタイミングで実施し、前向きに学ぼうとする姿勢が見られる⇒○	・全職員で全生徒の情報共有を行ったため、授業を本格的に展開する前に生徒の特性を理解し、対応することができた。また、職員会議などの場でも、特に気になる生徒については情報を共有し、多くの目で見守ることができた。情報共有100% ・有意義な研修ができるよう、研修会は部活動を行わない水曜日にてできる限り設定するなど、多くの教員が参加できるよう配慮した結果、参加者を増やすことができた。10%増	【課題】 ・多様な生徒を指導する上で、情報共有は欠かせない。そのためにも、全生徒の状況や特性を把握できる場を設定するだけではなく、全職員が参加できるように一定の配慮が必要。 【取組の方向性】 ・今後も情報共有と研修が有意義なものとなるよう設定していく。 ・教職員が「主体的・対話的で深い学び」に向けた姿勢は、生徒のよきロールモデルになるため、今後も学び続ける教員であり続ける必要がある。
	情報提供 (広報、生徒募集)	【現状】 近隣の小中学生への最大のPRである”みんブロ”はコロナ禍以降、参加する学校が近隣の小中学校に限られている。 【課題】 本校の良さを多くの人にアピールできるよう、HPやインスタグラムの取り組みを継続しつつ、限りある人材と資源の中で有効的な方法を考える必要がある。	・マスコミへの情報提供を行う。5%増。 ・本校の良さをアピールできる新たな取り組みを行う。5%増	・多くの行事で県への投込みを行った。⇒○ ・今年度は大型実習船の一般公開を実施した。また、小型実習船の体験乗船会も昨年同様に実施した。⇒○	・今年度は、小説「ナカスイ」の第二弾の発表により、水産高校の魅力を別の形でPRすることができた。その他にも企業と共同開発した「フライワシ」や鹿島丸出港式、ICTを活用したマサバ養殖の初出荷等、いろいろな取り組みを実施した。特にマサバの養殖事業では知事を表敬訪問することができ、本校への注目度も高まった。情報提供5%増 ・大型実習船「鹿島丸」の一般公開は、初めての取り組みではあったが多くの方に参加していただいた。参加した児童生徒およびその保護者には十分に魅力が伝わったと感じている。 新たな取組10%増	【課題】 ・今年度は多くの場面でメディアに取り上げていただくことができたが、継続して情報発信ができるためには、今後も努力する必要がある。 【取組の方向性】 ・限りある人材と資源の中で、効果的な方法を考える。

\*はKPI